


Subject : **Japanese**

Production of Courseware
 - Content for Post Graduate Courses

Paper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**

Module 22 : **複文 (1) (Complex Sentence (1))**

Development Team

Principal Investigator:

Prof. Anita Khanna

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator:

Prof. Prashant Pardeshi

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer:

Prof. Emerita Yuriko Sunakawa

University of Tsukuba

Content Reviewer:

Prof. Kaoru Horie


Nagoya University

Japanese

Japanese Linguistics

複文 (1) (Complex Sentence (1))

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	複文 (1) (Complex Sentence (1))
Module ID	JPN-P02-M22
Quadrant 1	E-Text

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

複文 (1) (Complex Sentence (1))

(2) a. 電車が遅れて授業に遅刻した。
でんしゃ おく じゅぎょう ちこく

b. 電車が遅れて授業に遅刻したために、先生の話す内容がよく理解できなかった。
でんしゃ おく じゅぎょう ちこく せんせい はな ないよう りかい

(1) のように 1 つの述語からなる文を「単文」, (2) のように複数の述語からなる文を

「複文」と言う。また、述語を中心としたまとまりは「節」と呼ばれているが、この用語を使って言い換えるなら、「単文」とは1つの節からなる文、「複文」とは複数の節からなる文である。
ふくぶん い じゅつご ちゅうしん せつ よ
ようご つか い か たんぶん せつ ぶん ふくぶん ふくすう
せつ ぶん

2. 複文の種類

(2a) の、前半部の節「電車が遅れて」は、この部分だけでは 1 つの文として成り立たない。一方、後半部の節「授業に遅刻した」は、それだけで 1 つの文を作ることができる。このように、節には、他の節に依存しないと文を構成できない節と、それだけで独立して文を構成できる節がある。前者を「従属節」, 後者を「主節」と言う。
ぜんはんぶ せつ でんしゃ おく ぶん な た
いっぼう こうはんぶ せつ じゅぎょう ちこく ぶん つく
せつ た せつ いぞん ぶん こうせい せつ
どくりつ ぶん こうせい せつ ぜんしゃ じゅうぞくせつ こうしゃ しゅせつ い

日本語は、一般に、従属節が主節に先行するという語順を取る。
にほんご いっばん じゅうぞくせつ しゅせつ せんこう ごじゅん と

複文は、従属節と主節からなる文である。そして、従属節は、主節に対する関係のありかたによっていくつかの種類に分けられる。
しゅるい わ

(3) ^{いもうと}妹 ^{とくい}はスポーツが得意だが、^{わたし}私は^{にがて}苦手だ。

(4) ^{あめ}雨が^{しゅっぱつ}やんだら出発します。

(3) は「^{いもうと}妹 ^{とくい}はスポーツが得意だが」という従属節が、「^{わたし}私は^{にがて}苦手だ」という主節に

^{たんじゅん}単純に並ぶ関係で結びついている。一方、(4) の従属節「^{あめ}雨が^{しゅっぱつ}やんだら」は、主節の

^{あらわ}表す事態が成立する条件を表し、従属節が主節を副詞的に^{しゅうしよく}修飾するという関係で

^{むす}結びついている。(3) のような従属節は「^{じゅうぞくせつ}等位・^{へいれつせつ}並列節」、(4) のような従属節は

「^{ふくしせつ}副詞節 (または連用修飾節)」に分類される。従属節にはさらに次のようなものもある。

(5) ^{じこ}事故が^お起こったのを目撃した。

(6) ^{じこ}事故で^{ひと}けがをした人が^{はこ}運ばれてきた。

(5) の従属節「^{じゅうぞくせつ}事故が^{じこ}起こった」は、「^お〇〇を^{もくげき}目撃した」の「^い〇〇」の位置にある。こ

の節は、「^{せつ}事故を^{じこ}目撃した」の「^{もくげき}事故」という名詞が担うのと同様に、「^{じこ}目撃した」と

いう述語の意味を補足する働きを担っている。一方、(6) の従属節「^{じゅうぞくせつ}事故で^{じこ}けがをし

「人」という名詞を修飾する役割を果たしている。前者は「補足節」、後者は「連体修飾節」に分類される。

以上に示したように、従属節は、大きく「等位・並列節」「副詞節」「補足節」

「連体修飾節」の4つに分類されるが、このモジュールでは、それらのうちの「等

位・並列節」と「補足節」について説明する。「副詞節」については「複文(2)」のモ

ジュール、「連体修飾節」については「名詞修飾(連体修飾)表現」のモジュ

ールで扱うので、そちらを参照していただきたい。

3. 等位・並列節

主節の全部または一部と対等の関係にある節を「等位・並列節」と言う。等位・並列節はさらに「等位節」と「並列節」に分けられる。

(7) 父は会社勤めをし、母は実家の商売を手伝った。(等位節)

(8) 休日はたいてい家の掃除をしたり買い物に出かけたりします。(並列節)

(7) の「父は会社勤めをし」は、主節「母は実家の商売を手伝った」と対等の関係にある。

一方、(8) の「家の掃除をしたり」は、「買い物をしたり」の部分と対等の関係にある。

を結んでおり，その全体が「する」と結びついて主節を構成している。従属節と主節

が対等の関係を結ぶ (7) のタイプを等位節，節同士が従属節内部で対等の関係を構成

する (8) のタイプを並列節と言う。それぞれの形式と例文を以下に挙げる。

等位節：けれど，が，し，テ形，連用形，一方で，反面，うえに， etc.

(9) あの子は成績もいいし，スポーツも万能だ。

(10) 二人の子どもを育てる一方で，作家としても活躍していた。

(11) この薬はよく効く反面，副作用も強い。

並列節：～たり～たり，～か～か，～とか～とか，～にせよ～にせよ， etc.

(12) 進学のために東京に行くか，親のために家に残るか，迷っている。

(13) 熱があるなら，薬を飲むとか病院に行くとかしたほうがいい。

(14) 留学するにせよしないにせよ，語学はしっかり勉強しておけ。

へいれつせつ ほそくせつ ぶん しゅご ほご ともな めいし
並列節は、補足節のように文の主語や補語になったり、「の」を伴って名詞を

しゅうしよく ともな ふくごうてき じゅつご こうせい
修飾したり、「する」を伴って複合的な述語を構成したりすることができる。これ

とういせつ せいしつ
は等位節にはない性質である。

うた おど だいす
(15) 歌ったり踊ったりが大好きです。

い し きび かんきょう い
(16) 生きるか死ぬかの厳しい環境で生きている。

ある すこ からだ うご
(17) 歩くとかジョギングするとかして少しは体を動かしなさい。

4. 補足節

ほそくせつ じゅつご たい しゅご ほご かんけい こうせい
「補足節」とは、述語に対して主語や補語の関係を構成したり、「だ」「である」な

ともな じゅつご せつ ともな しゅだい
どを伴って述語となったりする節のことである。(20)のように「は」を伴って主題を
こうせい
構成することもある。

まいあさ しゅうかん
(18) 毎朝5キロのジョギングをするのが習慣になっています。

ひさ うみ い たの
(19) 久しぶりに海に行くのを楽しみにしている。

おもしろ ふだん せんせい きゅう じょうだん い はじ
(20) 面白かったのは、普段はまじめな先生が急に冗談を言い始めたことです。

(18) ~ (20) に示した補足節は、末尾に「の」や「こと」を伴って名詞と同じ機能を

果たしている。このように、節を名詞化する補足節は「名詞節」と呼ばれている。

補足節には「名詞節」のほかに、「引用節」と「疑問節」がある。

「引用節」とは、末尾に「と」「よう(に)」を伴い、述語に対する補語になる

節である。引用節には (21) のように思考の内容を表すものと、(22) のように発言の

内容を表すものがある。

(21) 卒業したらIT企業に勤めたいと考えている。

(22) 仕事のことは忘れて、ゆっくり静養するように伝えてください。

「複文(2)」の「6. 従属節の従属度」の箇所です。詳しく述べるように、通常、節の内部に終助詞の「よ」や「ね」などは出現しない(例: 「この薬はよく効くよが高い」

は非文)。また、等位節以外では主題の「は」も出現しない(例: 「母は焼いたケーキはおいしい」は非文)。しかし、引用節の中には、以下のように終助詞や主題の「は」

が出現することがある。

が出現することがある。

(23) 「君は本当によく頑張ったね」とコーチから励まされた。

この種の引用節は、発話された言葉を直接引用する「直接引用」である。それに

対して (21) や (22) の引用節は、発話された言葉を話し手の立場から言い換えた「間接引用」である。

「疑問節」とは「か」を伴い、不確定な内容を表す節である。主語や補語になったり、「だ」「である」などを伴って述語となったりする。

(24) 彼らがどこにいるのかが分からない。(主語)

(25) こんなとき、どうすればいいのかが教えてほしい。(補語)

(26) 問題は、期日までに完成できるかどうかです。(述語)

疑問節が主語や補語になる場合は、次のように格助詞が省略されることが多い。

(26) 彼らがどこにいるのか分からない。

(27) こんなとき、どうすればいいのか教えてほしい。

キーワード：

ふくぶん たんぶん せつ じゅうぞくせつ しゅせつ どうい へいれつせつ ふくしせつ ほそくせつ れんたいしゅうしょくせつ
複文 単文 節 従属節 主節 等位・並列節 副詞節 補足節 連体修飾節

どういせつ へいれつせつ めいしせつ いんようせつ ぎもんせつ ちよくせついんよう かんせついんよう
等位節 並列節 名詞節 引用節 疑問節 直接引用 間接引用

